

			<p>【日本文化における花】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花きに託した日本人の想いを理解するための万葉歌など古今の詩・文の展示
2. 現 代 の 諸 課 題	生物多様性の損失	<p>【生物多様性の損失による影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や人々の生活が環境に与えている負荷を知り、食料生産と環境の関係を探求する契機とする。 	<p>【水田の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田における物質循環、土壌や微生物の役割を理解するための展示
	気候変動	<p>【気候変動による影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の活動が環境にどのような負荷を与えていているかを理解する。 	<p>【農業と環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や人々の生活から生じる環境負荷の種類や影響度合いやみどりの食料システムを理解するための展示 ・手入れの行き届かない耕作放棄地や森林が、暮らしに与える負の影響を理解する展示
	食料生産の実態	<p>【世界の食料生産、農業情勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の脆弱な食料・農業事情を正確に把握し、食・農への関心を高める。 	<p>【日本の食料事情】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率や農業資材など食料安全保障の脆弱性を理解するための展示 ・フードロスなど、都市生活者と食料の関係への理解を深めるための展示や世界の取組事例の紹介
3, 明 日 の 社 会 と 暮 ら し	花と緑とともにある暮らし	<p>【暮らしの中にいかす花・緑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端の屋内緑化技術や補光技術等を利用しつつ、持続性にも配慮した、生活空間における装花、緑化の提案を通じ、日常利用する契機とする。 	<p>【花や緑を取り入れた明日の暮らし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なシーンごとに、先端技術とデザインを盛り込んだ装花・緑化のモデルルーム、モデルオフィス
		<p>【ビタミンF】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花や緑が、美しさ以外にも価値のあるものであることを理解し、積極的に植物を日常に取り入れるような行動を実践する契機とする。 	<p>【花・緑の効用の見える化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花や緑の効用に関する学術的な展示 ・花の色や香り、触感などが心身に及ぼす影響を見る化・体験する設備 ・緑の環境浄化機能を見る化・体験する設備
	農と緑のある都市	<p>【生産と生活の融合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市と農、緑との関わりを体感する 	<p>【身近な緑化運動やコミュニティガーデン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動体の育成に向け、市民や農業高校、産地などと共に創した花壇（屋外）

			<ul style="list-style-type: none"> ・土や生物とのふれあいやエディブルをテーマとした農的空間。
3. 明 日 の 社 会 と 暮 ら し	環境にスマートな農業	<p>【環境にやさしくスマートな農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、環境保全など農業の諸課題を解決するスマート農業への理解を通じ、農業への関心を高める。 	<p>【スマート農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業による未来の農業の姿やデータ活用し環境負荷を減らしつつ、生産性を上げる次世代農業に関する展示 <p>【近未来の施設園芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2050年施設園芸のゼロエミッション化に向けた最先端の環境制御、熱供給システムを備えた温室、植物の能力を最大限生かす環境管理技術に関する展示 ・植物の能力を最大限いかす環境管理技術に関する展示
		<p>【自然を再生する農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化石資源に頼らない持続性の高い農業について、その取組実態や環境保全効果などに理解を深め、消費行動を転換する契機とする。 	<p>【環境保全型農業の提案・自然再生を目指す農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然をいかした有機農業の仕組みや、環境保全効果を理解するため、農地（土）の比較、学校給食など消費者への広がりの事例 ・トキやコウノトリなどの生物の再生に向けた地域農業の取組事例 ・食品残渣や下水汚泥など有機資源を地域で循環利用する循環システムの展示
出口	花による歓送	<ul style="list-style-type: none"> ・各産地との共創による花壇や、珍しい花、歴史的価値のある花で来場者を歓送する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地の花産地やフラワーパークと連携した展示 ・過去の各種コンテスト、歴史に名を残した花、ゲノム編集の花など歴史的価値のある花の展示

(2) 屋外の展示構成等

入口「市民の森への眺め」、屋外展示①「文化を踏まえた日本庭園」、屋外展示②「生産・生活から生存を問う」の展示フローを構成するとともに、屋外全体でグリーンインフラを実装し、五感を刺激する体験を提供する。

区分		目的・展示例
入口	市民の森への眺め	<ul style="list-style-type: none"> 凹状地形上に広がる屋外展示と市民の森を一望する。 自然と自己とのつながりを意識するきっかけを組み込む。 遠くに見える空間への期待感を醸成する。
屋外 展示 ①	文化を踏まえた日本 庭園	<ul style="list-style-type: none"> 日本の造園技術を活用した修景・維持管理自体を展示の一つとし、自然共生する日本の自然観を表現する。 外国人来場者の関心も高い庭園様式を駆使し、我が国が誇る魅力として発信する。 都市や郊外における身近な生物多様性を可視化した展示を行う。
屋外 展示 ②	生産・生活から生存 を問う	<ul style="list-style-type: none"> 建築物と一緒に生産の場である圃場等を展示し、農（生産）と住まい（生活）が融合した空間を構成し、両者から生存について考える。 在来植物を活用するなど、地域の環境に適した魅力的かつ低コストで豊かな空間の創造（縮減社会における緑地（国土）の管理方策の提案）に挑戦する。
屋外 全体	グリーンインフラの 実装	<ul style="list-style-type: none"> 和泉川の流頭、谷地形をいかした、水を中心とし、雨水が庭園に貯留する様子を展示の一つとする。 集水域と氾濫原として捉え、気候変動等に対する協働のあり方を考える。 自然環境が有する多様な機能を活用してきた知恵・技術と、最新の技術を組み合わせた空間とし、「日本の自然観」と「明日の社会・暮らし」の架け橋とする。

5 展示としての建築物

建築物については、木造を基本に施設自体が展示となるような性質を持つものとする。西側の建築物については、日本の自然観を見つめ直す空間とするため、屋敷林や縁側、坪庭など自然を屋内にも取り入れてきた日本家屋の伝統を体感できるものとする。東側の建築物については、明日の社会と暮らしを提示する空間とするため、特殊緑化等で自然との一体性を示すとともに、省エネ基準を満たす建築を目指す。なお、屋根の雨水利用など水の循環を意識した建築とし、太陽光発電等による自然再生エネルギーの活用を行う。

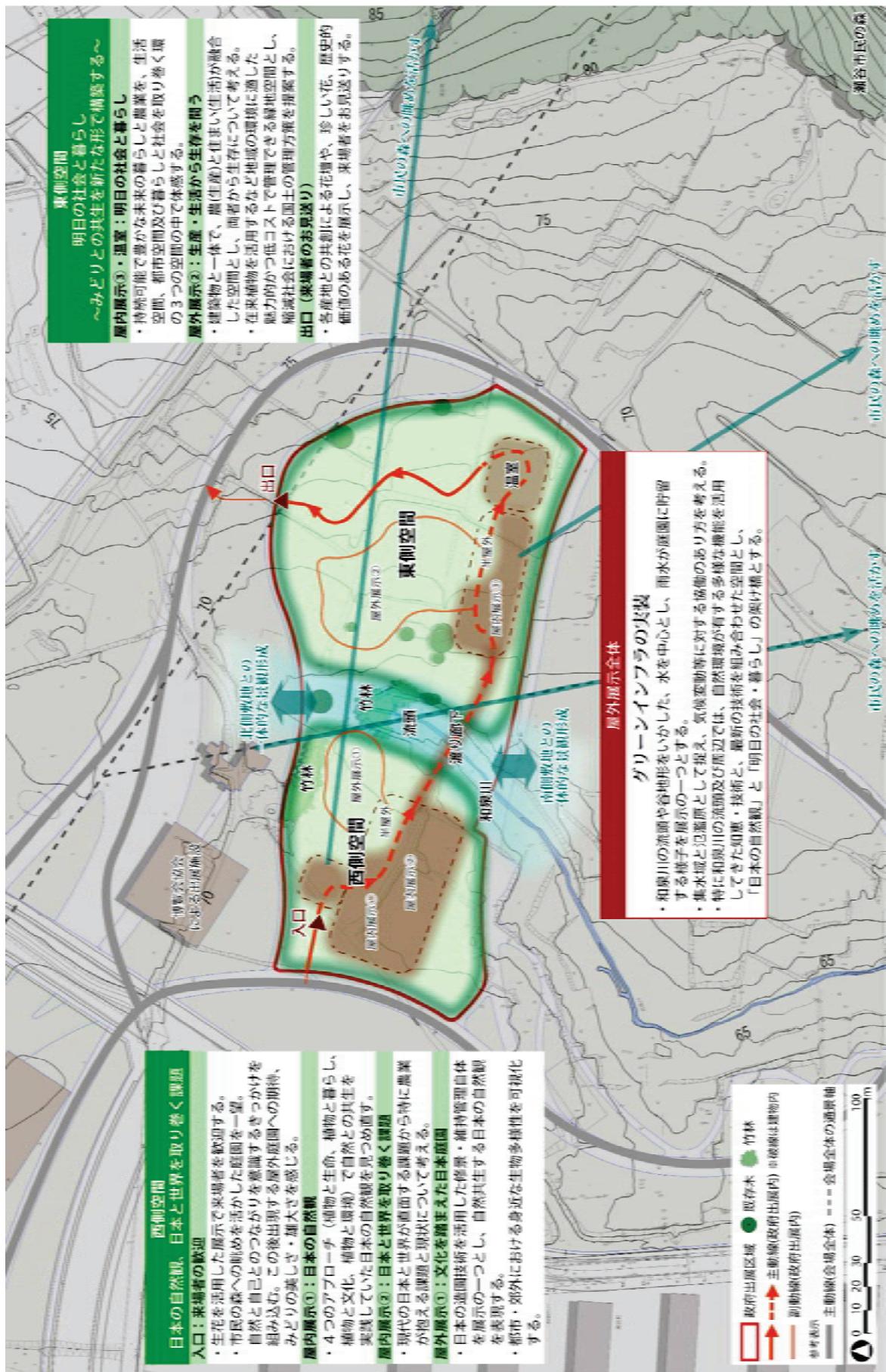


図 14 基本計画図

V 管理運営計画

政府出展は本博覧会の中核を担う出展のひとつとして、その役割や出展のねらいにふさわしい水準を保持し、来場者が安全かつ快適な環境の中で展示を体験できる円滑かつ効率的な管理運営計画を検討する。

1 展示用植物、作物の供給、育成、管理

本博覧会の開催国政府の出展として、全期間を通じ常に花と緑を高い水準で良好な状態に維持するため、展示する植物や農作物等に関し、安定かつ効率的な供給・育成・管理ができる体制と計画を検討する。

2 展示施設、栽培管理施設

会期前から会期中に渡り緻密に育成・管理ができるよう、植栽環境を的確に維持管理できる屋内外の施設を計画する。また、大量多品目の植物を滞留することなく、円滑に搬入出・仕分け、ストック、育成管理ができる、十分なスペースと適切な設備のある栽培管理施設とストックヤードを検討する。

3 順応的な管理運営

不確実性の高い自然や生態系を対象とする事業であるため、当初の計画では想定し得ない事態にも対応できるよう、モニタリングとフィードバックを行い、継続的な管理運営を検討する。

4 季節に応じた管理運営

半年の会期の間、それぞれの季節に応じた管理運営の計画を検討する。

5 将来への人材育成

社会課題をみどりで解決するという視点のもと、ボランティア活動等を通じ、本出展に携わった方が、気づきを得て、その後の探求や実践につなげることができるような計画を検討する。

6 インクルーシブ

来場者やスタッフ、すべてのステークホルダーにおいて、多種多様な人々が積極的かつ安心して参加できるよう、インクルーシブを考慮した管理運営を検討する。

7 多言語対応

世界各国からの来場者に対し、日本の技術、文化等の魅力を充分に伝えられるよう、展示メッセージやサイネージとともに、デジタルデバイスの活用、多言語対応スタッフの配置等により多様な言語ニーズへの対応を検討する。

8 環境配慮への対応

運営面においても SDGs の達成に貢献し、その先の社会も見据えた日本の将来像を提示すべく、計画段階から環境負荷の削減に配慮して検討する。

9 来場者の安全の確保

来場者の安全を最優先とし、感染症対策、暑熱対策等を含めた管理運営計画を検討する。また地震や台風、荒天時等の緊急対応も十分に想定した計画を検討する。

10 警備・警護

本出展が日本国政府の出展であることに留意し、政府出展としての風格と品位を保持しつつ、展示物の警備や本出展を訪れた賓客の警護等への対応を検討する。

VI 行催事計画

行催事は、動的な展示とも捉えることができ、屋内外における各種展示の効果をより高めるとともに、その更なる理解を促すものとする必要がある。そのため、政府出展の理念や展示内容、博覧会全体で検討される行催事計画を踏まえつつ、行催事を通じた来場者との双方向のコミュニケーション創出の視点を持ち、行催事の区分を設定するとともに、以下の要素を組み込んだ行催事計画を検討する。

1 メッセージ性

政府出展の理念を印象的に伝える機会として、暮らしとともににある日本の自然観や明日の社会と暮らしに対する理解の後押しとなり、来場者的心に残り、行動変容を促す行催事を検討する。

2 エンターテイメント性

国内外から訪れる来場者に対し、感性に訴え、感動や共感につなげるとともに、誰にとっても楽しく分かりやすい行催事を検討する。

3 参加性

多様な主体が参加できる機会として、多様な価値観の交流や、新たなつながりを促進する行催事を検討する。

4 話題性

長期にわたる博覧会の開催に対し、来場促進やリピート来場に寄与することを目指し、多彩で魅力に富み、人に伝えたくなる行催事を検討する。

5 季節性

開催から閉会までの各種行催事において、日本の気候風土と関連する行事や祭礼、植物や作物などの季節感とともに、イベントとしての多客時期や閑散期なども考慮したスケジュールを検討する。

VII 広報・参加計画

会期前からの機運醸成、会期中の情報発信、会期後の追体験という、3つの段階を通じ、各段階に応じた情報提供を行い、多様な主体との共創を図るとともに、デジタルを活用した効果的なコミュニケーションを目指す。

1 会期前からの機運醸成につながる広報

コミュニケーションの目的は、来場者や関係者となり得る全ての人々を対象に、2027年国際園芸博覧会および政府出展に関する認知及び理解を促し、関係構築を実現していくことである。そのため会期前から様々な情報を展開することで機運醸成に寄与するとともに、幅広い層の关心や行動の喚起、共有につなげることを目指す。

2 未来を担う子供や教育機関との共創

子供たちが日本の農や自然に対する学びの場となることを目指し、会期前から地域や教育機関と連携し関係構築につながる計画を検討するとともに、未来を担う子供たちのこれらの産業に対する関心向上につながる計画を検討する。

3 多様な主体の参加による共創

関係機関・団体、自治体、市民、企業等の多様な主体との共創を目指し、情報発信や施策、連携した取組を検討する。

4 デジタルを活用したコミュニケーション

会期前から会期中に渡り、リアルでのコミュニケーションに加え、リアルとデジタルを融合させるなど、より効果的なコミュニケーションとなるよう、状況に合わせてデジタルを活用することで、相互関係構築につながるコミュニケーションを目指す。

5 会期後のコミュニケーション

来場者をはじめ政府出展に関する情報発信に触れた方が、植物との関わりから広がる人や社会と自然との新たな関係構築につながるコミュニケーションを計画する。

花き園芸・造園・農等の各産業はもとより、様々な分野の団体や個人が本博覧会を機に積極的に参加・交流・連携し、気づきと共に感を得ることで、花き園芸・造園・農を担う次世代の人材育成やビジネスの拡大等につながるよう、培われたコミュニティや取組等がレガシーとして残すことを目指す。

VIII 今後の進め方と検討課題

1 令和5年度以降の推進スケジュール

本計画策定後、2027年国際園芸博覧会が閉会する令和9年度までの主なスケジュールは以下のとおりである。(2023年3月時点)

	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
屋外展示		基本設計・実施設計	工事			
建築		基本設計・実施設計	工事			
屋内展示		概要検討	基本設計・実施設計	工事		博覧会開催
管理運営・行催事		概要検討	基本計画・実施計画	制作・準備		(3月19日～9月26日)
広報		概要検討	実施計画	事業実施		

今後の検討にあたっては、政府出展を構成する屋外展示、建築、屋内展示ごとに検討体制を構築する。また、本計画に基づき、各分野が調和した出展とするため、各分野が連携して検討を進める仕組みの導入を図る。